

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光客の増加により、輸送量の増加が見込まれる。
		商店街（代表者）	・季節の変わり目となり、春の生活の変化の時期とも重なるため、消費も多少は増えてくる。
		商店街（代表者）	・これからオンシーズンに向かっていくため、今後の景気はやや良くなる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ数年間、当地は観光地としての特徴が強くなっていることから、これからゴールデンウィークを迎えて観光客の入込が増えてくることが見込まれ、地元経済に良い影響が生じる。
		百貨店（販売促進担当）	・4月以降、気温の上昇とともに、客の購買行動が春物衣料を中心に活発になってくる。
		スーパー（店長）	・2～3月と販売量が増えてきている。4～5月には創業祭や売出しなども行われるため、大きく売上が伸びることまでは期待できないにしても、右肩上がりになることが見込める。
		スーパー（店長）	・今後、パート社員の長時間雇用や時間給単価の上昇が見込まれるため、それに伴い消費動向も良くなると期待している。
		スーパー（店長）	・客の節約志向は依然として変わらないとみられるが、季節が変わり、気温の上昇とともに行楽関連の需要が活発になることで景気が良くなると期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・来客数が回復傾向にあることから、今後、よほどのことが生じない限り、前年以上の売上で推移することが見込める。
		乗用車販売店（従業員）	・これから新型車が出てくるため、車の販売量も少しは良くなると期待している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・大型学会が複数回行われる予定があるため、そのことがプラス要因となる。また、ゴールデンウィークの日並びが良く、5～9連休を見込めることもプラス要因となる。ただ、国内団体旅行については、集客状況が低調であり、今後も改善が見込めない。
		旅行代理店（従業員）	・6月以降、観光シーズンを迎えて、一部路線の大型機材投入などがあるため、外国人観光客を含めた観光需要の増加が期待できる。特に中国人観光客は、中国政府が旅行会社に韓国旅行商品の販売中止を指示したことの影響で、北海道観光への振替が期待できる。
		通信会社（企画担当）	・合理化により、固定費用の大幅削減が進んでいることから、今後の販売量の増加が期待できる。
		商店街（代表者）	・3か月後の6月はゴールデンウィーク後の月であり、他地域からの観光客などが来街するような要因もないため、初旬及び中旬の売上は減少するとみられるが、年金の支給月であることから、下旬になれば高齢者を中心に来街者が増加し、夏物衣料品などの売上アップが見込める。ただし、全体的にはやや悪い状態で推移する。
		商店街（代表者）	・外国人観光客の入込は一時期ほどの伸びがみられないものの、引き続き好調に推移している。しかし、今年の旧正月ごろから消費行動に大きな変化が生じ、大幅に売上を落としている店もみられるなど、今後の動向が心配である。
		商店街（代表者）	・春になり、それなりの出足は見込めるが、新入学や異動の時期が過ぎた後の動きは例年よりも少し落ち込むとみられる。
	百貨店（売場主任）	・春物定価品の各アイテムは、いずれも好調なスタートとなったが、来客数増加に向けて大きなポイントとなるボリュームゾーンの商材が苦戦し、回復待ちの状況であることから、今後も変わらないまま推移する。	
	百貨店（担当者）	・客単価の動きは日々上下変動しているが、全体的には売上と同様のトレンドで推移しており、売上のやや悪い状態に変化がみられないことから、今後も変わらないまま推移する。	
	百貨店（営業販促担当）	・雑貨、食品、紳士服の動きに明るさがみられるものの、婦人服の下げ止まりがまだみえない。また、一部の高額品に動きが出てきているが、全体的な客単価の低下傾向が続いていることから、今後も変わらない。	
	スーパー（店長）	・変動する要因が見当たらないため、今後も変わらない。	

スーパー（役員）	<ul style="list-style-type: none"> ・4月以降の数か月の動向については、4月こそ、新年度行事があることに加えて、年金支給月でもあることから、前年と比べても大きな変化はないとみられるが、その後は来客数の減少が続いている現状からやや悪い状況が続く。来客数の減少傾向は、周辺小売業も同様とみられ、顧客の節約志向が来店回数の減少につながっているのではないかと危惧している。
コンビニ（エリア担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から一部のたばこの値上げなどもあり、客の節約志向がより強まることになる。
コンビニ（エリア担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・当地での公共事業が減っており、それに伴い売上も前年と比べて減少することが懸念される。ただし、3月の売上は前年を上回っているため、今後の動向が変わる可能性もある。
コンビニ（エリア担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・当地は農業や漁業に多く依存するエリアであり、今のところ上向く要素が見当たらない。前年の台風の影響は今後も続くと思われる。
コンビニ（オーナー）	<ul style="list-style-type: none"> ・2月のプレミアムフライデーは来客数が減少し、当日限定のプレミアム品も売上アップにつながらず、当店にはプレミアムフライデーの効果がみられなかった。今後についても、プレミアムフライデーなどの効果を期待できないことから、変わらないまま推移する。
衣料品専門店（店長）	<ul style="list-style-type: none"> ・客の様子に変化がなく、来客数の伸びもみられないことから、今後も変わらない。
家電量販店（店員）	<ul style="list-style-type: none"> ・3月末の来客数が少し落ち込んでおり、今後に向かっての期待感がみえない。
乗用車販売店（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・先行指標である新車の受注台数は、高水準であった前年同月と同様の水準を引き続き維持できていることから、この傾向は当面続く。
乗用車販売店（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では今以上に良くなる要素が見当たらないため、今後も変わらない。
乗用車販売店（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> ・将来に向けての明るい兆しがないため、今後も変わらない。
乗用車販売店（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> ・新卒採用など、各企業の動きは活発であるが、賃金については定期昇給しか見込めないため、景気は現状維持のまま推移する。
自動車備品販売店（店長）	<ul style="list-style-type: none"> ・競合店も含めた第1四半期の業界動向は、商品の販売個数こそ前年を上回っているが、金額では前年の98%と見込まれている。ドライブレコーダーやレーダーなどを中心に客単価の下落が進んでおり、今後も厳しいまま変わらない。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・客にとって、健康相談は病院でするものであり、ドラッグストアではできないという変な図式ができていたため、対応できる個店もあることをみせていけない限り、今後の景気は変わらない。
その他専門店〔造花〕（店長）	<ul style="list-style-type: none"> ・景気を上向かせるような政策がないため、今後も変わらない。
高級レストラン（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の活気がないように見える。また、国有地売却関連の影響で現政権の支持率が下がるような動きがみられたほか、米国の新大統領の政策の動向が不透明なことで株価への影響もみられるなど、景気が良くなるような材料が見当たらないことから、今後も変わらない。
高級レストラン（スタッフ）	<ul style="list-style-type: none"> ・今後については、予約こそ入ってきているが、利用人数、客単価とも目標以下であり、売上があまり見込めない。また、ゴールデンウィーク期間を除けば、観光もまだ閑散期であり、景気が上向く要素は見当たらないため、変わらないまま推移する。
旅行代理店（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月前よりも景気は良くなっているが、景気が回復しているとまでは言い切れない水準であるため、2～3か月後も今の上向き傾向が継続するとはいえない。ただ、景気が悪くなることも考えられない。
旅行代理店（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> ・先行の申込件数が例年と大きく変わらず、特殊要因も見当たらないため、今後の景気も変わらないまま推移する。
旅行代理店（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> ・劇的に景気が良くなるような要素はないため、今後も景気は変わらない。ただ、店頭での客の反応から、何となくではあるが、良くなる方向になってきつつある。
タクシー運転手	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に前年並みの予約状況であるため、今後についてもあまり変わらない。
タクシー運転手	<ul style="list-style-type: none"> ・乗務員不足の影響で、現状維持が精一杯の状況であるため、今後も変わらない。
タクシー運転手	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りなどに変化があまり見当たらないため、今後も変わらない。

	タクシー運転手	・夏場の観光需要に期待しているが、今の状況から判断して、今年度への期待はあまり持てない。景気対策が一番の問題である。	
	通信会社（社員）	・業界的には、景気の動向に直結するような動きがみられない。今後については現状維持のまま推移する。	
	観光名所（従業員）	・これまで北海道新幹線の開業効果が地元経済をけん引してきたが、今後については次第に効果が薄れていくことになる。一方、航空路線ではLCCが好調で、延長運航を決めた路線もあるなど、プラスの効果が見込めることから、総じてプラスマイナスゼロで推移することになる。	
	観光名所（職員）	・外国人観光客の増加などを要因として、一定の好調を維持している。ただし、アジア圏からの観光客が主であるため、今後の海外情勢などの変化を注視していく必要がある。	
	美容室（経営者）	・すでに3月の売上が好調であり、今後、これ以上に売上が良くなることは難しいとみられるため、当分は同じような状況が続く。	
	美容室（経営者）	・3月は1年間の中でも繁忙期に当たる時期であり、前年並みの売上となったが、この後、2～3か月は大きな催事もないため、景気は変わらないまま推移する。	
	美容室（経営者）	・客の様子から、子供や孫に対しては惜しみなく支出するが、その分、自分が何かを我慢していると感じることが多いため、景気は今後も変わらない。	
	百貨店（役員）	・今後、3か月は1年の中で最も売上の下がる時期となるため、来客数及び買上客数の減少傾向、客単価の低下傾向が更に進むことになる。	
	スーパー（企画担当）	・今年に入ってから、来客数の前年割れが続いている。一方で買上点数は伸びていない。店頭現場での実感としては、スーパーに行くとしても必要でないもので買ってしまうため、極力買物を控えようという傾向が表れていることがうかがえ、今後については景気がやや悪くなることが懸念される。	
	スーパー（役員）	・水産業の不振が続いている。イカ、ホッケ、ホタテなど、中心となる魚種が特に不振であり、地域全体に影響が出ている。	
	乗用車販売店（従業員）	・例年、これから4～6月にかけて販売量が漸減し、7～9月にかけて盛り返すという動きとなるため、今後については、販売量がやや減少することになる。新型車の販売予定がないことも影響する。	
	高級レストラン（スタッフ）	・今後については、新年度を迎えて間もない時期であり、企業の出張など、人の動きが活発化するまで時間がかかることになる。前年も大きな動きがみられなかった時期であるため、景気はやや悪くなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・先行指標である株価の動きが悪いことに加えて、人手不足に伴う企業の人件費負担増も懸念されるため、先行きについては厳しくなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・現在、分譲マンション市場では需給関係が悪く、完成在庫の値引きが始まっているなど、景気が好転するような材料が見当たらない。	
	×	コンビニ（エリア担当）	・当地の漁の状況が悪く、回復する見込みもないことから、今後の景気回復は厳しいとみられる。競合店の出店が予測されることもマイナスである。
	×	観光型ホテル（役員）	・今後も引き続き円高が続くと懸念から、外国人観光客の予約状況が鈍く、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・例年、4月になるとタクシーの利用が激減しており、今年も暖かくなるとともにタクシーの利用が減り始めている。また、3月までの実績をみると、乗務員不足の影響で減収が続いており、しばらくは同様の状況が続くとみられることから、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)	-	-	
	食料品製造業（従業員）	・北海道以外の会社から当社の商材を販売したいとの問い合わせが増えていることから、今後についてはやや良くなる。	
	建設業（経営者）	・新規の公共工事がかなり発注されており、まだ工事は未着手だが手持ち工事量はかなり積み上がっている。今後、建築工事も官民それぞれで発注が本格化し、ゴールデンウィーク明けには工事が始まるとみられることから、景気はやや良くなる。	
	コピーサービス業（従業員）	・働き方改革を進める企業が非常に多く、働き方の改善につながるような設備投資についても様々な方面から検討を始めていることから、今後については景気がやや良くなる。また、働き方改革により、従業員のプライベートな時間が増えることになれば、消費にも影響が拡大していくことになる。	

	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・災害復興工事が本格的に始まり、商談、引き合いが増加していることから、今後の景気はやや良くなる。
	食料品製造業（従業員）	・今後の受注予定で、販売量の大幅な増加につながるような案件が見当たらないため、今後も変わらない。
	家具製造業（経営者）	・あまりにも外部要因に起因する不安要素が多いため、ユーザーの消費行動が慎重であり、今後も景気は変わらない。
	輸送業（支店長）	・季節的に今よりも輸送量の増える時期ではあるが、スポット輸送の見積量が期待ほどではないことから、今後も景気は変わらない。また、燃料油の価格が不安定であることから、収支面での不安も拭えない。
	通信業（営業担当）	・現在の販売量とその単価、並びに商談中の案件規模、予算などの動きから、景況感は現在と同様のやや良い状況で推移する。
	金融業（従業員）	・道南ではホテル、旅館を中心に、前年の北海道新幹線の開業効果の反動減がみられ始めている。ただ、反動減が道内景気を下押しするものの、公共投資が下支えすることになり、3か月前と比較して景気は変わらない水準で推移する。
	司法書士	・北海道特有の季節的な問題もあり、今後については、建物の建築、土地取引などの動きが上向いてくるとみられるが、景気が良いと判断できる水準まで上向くとはいえない。
	司法書士	・国の予算が成立したが、これにより景気回復が進むのはまだ先の話である。また、実際に景気回復につながるかを見極める必要もある。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・ここ数か月、受注量が前年比110%程度で推移しており、今後も同様の状況がしばらく続く。
	建設業（従業員）	・年度末に実施された大型建築工事の入札において、厳しい予定価格のため、不落が予想されたにもかかわらず、建築、設備とも落札されており、今年度、特に後半の仕事量が不足していることが裏付けられた。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・計画している案件について、予算規模を縮小して続行するケースや、当初増額予定だったものを現状維持で続行するケースが増えている。また、投資意欲が消極的になっているとの発言を耳にする機会も増えている。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・3月の売上が好調なことの反動で、2～3か月先の販売量の減少が懸念される。
	x	-
雇用 関連 (北海道)	求人情報誌製作会社（編集者）	・人手不足ではあるものの、企業の求人意欲は旺盛であり、経済活動が前向きなことから、今後についてはやや良くなる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・前年の台風被害に伴う復旧工事の土木建設関連の受注増が見込まれること、観光客の入込増加が見込まれることがプラス要因となり、今後の景気はやや良くなる。
	学校〔大学〕（就職担当）	・前年の新卒採用において、企業が必要な人数を充足できなかったこともあり、今年は何の企業も動きが早く、活発である。また、新卒の採用予定人数も増えている。企業が将来の不景気を想定していれば、人件費圧縮の方向に向かうことになるが、現状からはそれなりの好景気を見越しているとみられ、今後についてはやや良くなる。
	人材派遣会社（社員）	・北海道は雪解けに伴い経済活動が活発になるため、今後、求人依頼は更に増えることになる。特に建設業関連、販売関連で人材の依頼が増えることになる。しかしながら、若い層は、フル勤務の仕事よりも短期単発の仕事を好み、対人相手の仕事を敬遠するなどの傾向がみられることから、サービス業では人材の調達に苦戦する状況が続くそうである。
	人材派遣会社（社員）	・現状から、今後、3か月程度の期間では求職者の動きは変わらない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・人手不足が続いている飲食業や小売業などでは、求人を探るような動きもみられるが、全体的に大きな動きはみられない。

	職業安定所（職員）	・新規求人数の動きを前年と比較すると、事務的職業と介護サービスでは、派遣求人が2か月連続で減少する一方で、正社員、パート求人が2か月連続で増加している。そのほか、医療関係と社会福祉関係では、技術者が減少から増加に転じたほか、建設土木技術者では2か月連続で減少、商品販売では増加から減少に転じるなど、職業間でばらつきがみられる。ただ、全体的にはパート求人が増加傾向、派遣求人が減少傾向で推移しているものの、全体の増減数が少ないことから、今後、しばらくは大きな変動はないとみられる。
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が1.00倍と1年9か月連続で1倍超えの高水準が続いているため、今後も変わらないまま推移する。
	職業安定所（職員）	・新規求人数については、企業進出や事業拡大に伴う人員確保の情報もないことから、引き続きここ3か月と同様の水準で推移する。一方、有効求職者数についても、引き続き高い水準で推移すると見込まれることから、今後の雇用情勢に大きな変化はみられない。
	職業安定所（職員）	・観光業については夏場までは好調に推移するとみられるが、水産加工業や建設業については廃業や人員整理もあり、全体では横ばいでの推移となる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後の景気は不透明ではあるが、人材不足の状況に変わりはないため、企業の求人意欲は高いまま推移する。また、制度や待遇を充実させて、人材を定着させようという動きも活発になるとみられる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人件数が減少しているため、今後についてはやや悪くなる。景況感が良くないこともあるが、人手不足感が強く、何をしても人が応募してこないことが大きな要因となっている。
x	-	-